

# 東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion\_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2018年9月20日発行

第3号 (通巻第103号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

## 昨年冬期の教訓を今冬に活かそう!

2017年度冬期に発生した問題に関する申し入れの団体交渉を終了

新潟地本は9月6日、申23号・2017年度冬期に発生した問題に関する申し入れの団体交渉を行いました。昨年度冬期に発生した問題を振り返り、今年度の冬期体制に反映させるために交渉に臨みました。

冬期体制の開始日の繰り上げや、新たな仕組みの構築を提言した組合側に対し支社側は、現時点では基本的に例年通りの取り組みに沿ったものになるとの考えを示すにとどまりました。

### 冬期体制開始日の前倒しを求める

冬期体制は例年12月15日からの実施とされていますが、実際はそれ以前の降雪により輸送障害等が生じています。

安全・安定輸送の確保やサービスの視点から冬期体制を12月1日からとするよう求めました。支社側は、設備は近年12月1日から稼働出来る様に整備・点検を行っているに加え、基本は契約期間

## 長岡運輸区で JR採用車掌の仲間が加入!

9月5日付



新たな仲間と  
共にがんばろう!

支社側が、冬期体制の期

はしないとしながらも、判断基準を設けても雨や風の規制と違い除雪が入るため時間がかかることから未然の除雪計画を重点的に行うとしました。状況把握のツールとして昨冬設置した雪況カメラについて、今冬は列車が雪を抱えて停車した箇所

安全が担保されてこそその冬期輸送だ

一方、雪が降り積もっている中では人力では限界があり、駅構内であれば、基本は駅業務による除雪となるとしました。

今後提案される冬期体制の内容も含め、今冬期を万全の体制で臨むため議論を創り出していきます。



拠点箇所に線路上の積雪を観測する機器を設置して、除雪の判断基準を設けるよう求めました。雪積量に加え雪質等も関係し、乗務員や駅員などには判断が難しいことか

乗用除雪機械のスペース

（株）直江津運転センターの旧・中部詰所から駅ホームにかけて通路の除雪が不十分であり、転倒による傷害事故の恐れがあることから、除雪を行うよう求めました。

支社側は、指定通路はJR時代と同じだと確認したとして、除雪の要請を行っていくと回答しました。

Uの滑走制御、VVVF制御装置の滑走検知の設定プログラム改修を試行すると回答しました。

### 新たな取り組みで雪への対策を



支社側は、線引きが難しいとして、これまでの降雪状況をしながら設定しているが未来永劫ではないとの考えを示しました。

冬期前に凍結でドアが開かない事象がE653系等で多く発生しているため、レールヒーター、サービスマシン水回りなど12月1日に全ての車両にヒーターが使える状態とするよう検討を求めると、支社も了解としました。

（昭和採用連絡会 投稿）

昭和採用連絡会は9月7日、新潟駅前の「プラスサード」で、シニア組合員45名の参加者のもと「年寄りの元気になる飲み会」を開催しました。

## まだまだ老け込むのは早いぞ!

### 年寄りの元気になる飲み会



昭和採用連絡会からは「まだまだ老け込むのは早い」との声が聞かれ、組織の強化、拡大に向けて取り組んでいく意思統一ができたことは大きな成果でした。継続した開催を望む声が多く出されたことから、昭和採用連絡会として、継続した取組みへ発展させていこうと考えています。

次回はいよいよ多くの組合員の参加をお待ちしています。参加された組合員の皆さん、大変お疲れ様でした。